扁額、掛軸（今までの展示状況）

河井弥八記念館では、毎年12月末に扁額、掛軸等を借用して展示（1年間）しております。
河井弥八先生が揮毫された、扁額、掛軸等は、南郷地区内外に多数あり、持ち主様のあたたかいお気持ちの上で、12月末より翌年12月末までお借りして、記念館に展示させてもらっています。
平成24年より展示させてもらった、扁額・掛軸等は次の通りです。

※平成24年（H24年4月～12月）

扁額　『不如人和』

出典　孟子（交孫丑下）
「天時不如地利、地利不如人和」…「いかに土地の形勢が有利であっても、人の和合、団結の堅固なのには及ばない。」の意
（南郷公会堂）

扁額　『和気生祥』

「人は穏やかで和やかな気持ちでいると、よいことが生まれるものである。」の意
（南郷公会堂）

※平成25年（H25年1月～12月）

扁額　『勤倹譲』

「日常はよく働き、生活は質素にして慎ましく生き、余裕があれば人にほどこしを」の意
大日本報徳社社長の河井弥八氏は、報徳思想の根源を揮毫して贈った。　贈られた金田利平氏は、市内の建設業「(株)金田組」の二代目経営者。
（金田実平家　蔵）

揮毫を贈られた当時の小笠山山麓の状況と河井弥八氏

小笠山山麓を曽我方面に流れ出る東山沢川と西山沢川は、共に河底が民家の天井より高く、大洪水の時などは、国鉄東海道線が大出水によりたびたび運転が休止することがあった。これを知った、当時(社)全国治水砂防協会副会長だった河井弥八先生は、旧建設省の青山技監（磐田市見付出身）を伴って現地を視察された。
以後、小笠山北側斜面の多くの砂防ダムを作ることに尽力され、災害防止に貢献された。
（金田実平氏談）

金田実平氏は、**扁額『勤倹譲』**を記念館に寄贈された。
（H26年3月15日）

扁額　『吾日三省吾身』

「良き生き方をするには、絶えず自分を振り返り、律しなければならない」の意
　坂部秋松先生は、校長を務めた人。河井弥八氏来校の折り、揮毫をお願いした。

（坂部秀樹家　蔵）

※平成26年（H26年1月～12月）

扁額　『一圓融合』

　二宮尊徳によって提唱された言葉。　万物は一つの円の中で、互いに働き合い一体となることで、初めて成果が表れる、という報徳思想。　家族は、それぞれが分に応じた働きをすることによって、一家としてまとまりのある生活が築かれる。の意

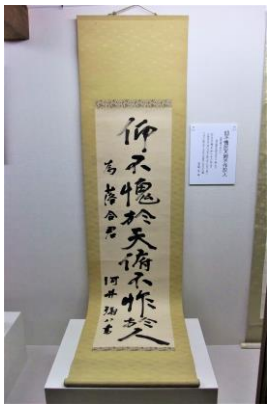
（小沢英保家　蔵）

扁額　『和気生祥』

「人は穏やかで和やかな気持ちでいると、よいことが生まれるものである。」の意

（静岡・八木義矩氏　寄贈）

※平成27年（H27年1月～12月）

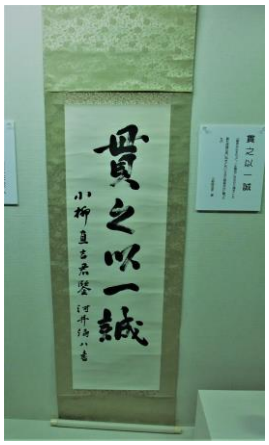


掛軸　『仰不愧於天俯不作於人』

出典「孟子、尽心上」「仰不愧於天俯不作於人二楽」より
（仰いで天に愧（ハ）じず、俯（フ）しては人に作（ハ）じず）

「公明正大で、仰いでは天に恥じることなく、俯しては人に恥じることのない生活をしなさい」の意

（落合敏一家　蔵）



掛軸　『貫之以一誠』

「誠実な心をもって、一生懸命これをやり通すこと」
　最も信頼の高い同志ともいえる小柳直吉氏に贈ったもの

（小柳純治家　蔵）

扁額　『以徳報徳』

「或日、以徳報怨何如、子曰、何以報徳、以直報怨、以徳報徳」　　（出典　論語　憲問篇）

「受けた恩義や行為に対しては、それ相応の徳をもって報いるものだ」の意か。

（浅井茶銘店　蔵）

※平成28年（H28年1月～12月）

扁額　『不如人和』

出典『孟子』（公孫丑）
「天時不如地利、地利不如人和」から

読み　「天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず」
意味　「いかに土地の形勢が有利であっても、人の和合、団結の堅固なのには及ばない。」の意

（東萩間公民館　蔵）

扁額　『開物成務』

出典『易経』繫辞
「物を開き、務めを成す」と読む
「物」は、物そのものではなく、人間を含む広い存在、
「務」は事業

意味　「いろいろな事を開発し、事業を成功させること」の意

（森　衙郎氏　蔵）

※平成29年（H29年1月～12月）

扁額　『自強不息』

（読み）　じきょう　やまず
（意味）　自分を向上させるために、日々努力しなくてはいけない。
（出典）　周易

（北川浩一郎家　蔵）

扁額　『金露芳』

（読み）　きんろ　かんばし
（解説）　戦後、報徳社の経済的困窮を打開するため、報徳社支部を通して、茶の販売に力を入れた。茶の銘柄も金露、鷺月、恵香等河井社長自ら命名した。　揮毫をお願いした処上記を下された。

（浅井銘茶店　蔵）

※平成30年（H30年1月～12月）

扁額　『仰之彌高』

（読み）　これをあおげば　いよいよたかし
（意味）　先生（孔子）の徳は見上げるほどに益々高い。
（高い目標に向って努力し、少しでも近づくことの大切さを諭したものの意か。）
（出典）　論語　子罕第9-11

（挙張神社　蔵）

扁額　『輪転応急』

（読み）　りんてん　おうきゅう
（意味）　機に応じて、事業を前進させよう。

（解説）　河井弥八氏は、タクシー会社を経営する先代早瀬氏と親交があり、励ましのエールを送る意味で贈ったものとされる。

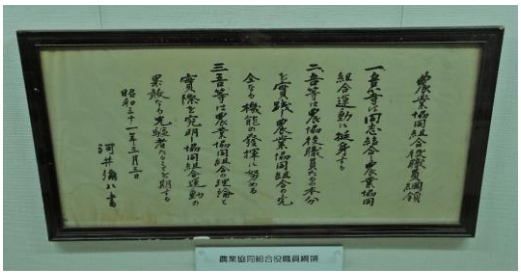
（早瀬家　蔵）

※平成31年（H31年1月～12月）

扁額『以 和 為 貴』

（読み）わをもって とおとしとなす
（出典）聖徳太子制定の十七条憲法の第一条
（意味）人々がお互いに仲良く、調和していく
　　ことが大事なことである。

（掛川商工会議所　蔵）



扁額『農業協同組合役職員綱領』

　河井弥八は、昭和３１年三回目の参議院議員選挙に立候補を考えていた。　そんな折、県農協中央会小笠支所長名木豊氏から依頼されて、この「役職員綱領」の全文を揮毫した。　この種の依頼内容の揮毫は珍しい。

（掛川市農協東山支所　蔵）

扁額『以徳報徳』

（読み）いとく　ほうとく
（出典）論語　憲問篇
（意味）「受けた恩義や行為に対しては、それ相応
　　の誠実さで報いるものだ」

　　絹布に直接揮毫したものは、珍しい。

（掛川市教育委員会　蔵）

※令和2年（R2年1月～12月）

掛軸『和気生瑞祥』

（読み）わきは　ずいしょうをうむ

（意味）穏やかでなごやかな気分でいると生活に
　　良い兆しが生ずるものである。

（大谷忠史氏　蔵）

掛軸『困辱非憂取困辱為憂
榮利非楽忘榮利為楽』

（読み）困辱（こんじょく）は憂ふに非ず、困辱を取らば憂ひをなさん
榮利は楽に非ず、榮利を忘るれば楽をなさん
（出典）格言聯壁
（意味）困辱や屈辱そのものは憂慮すべきことでもないが、困難や恥辱を受けてしまったならば本当に憂慮すべきことになるだろう。
栄誉や利益そのものは安楽（幸せ・平安）ではないが、栄誉や利益を忘れることが出来れば本当の安楽（幸せ・平安）を得ることが出来るであろう。

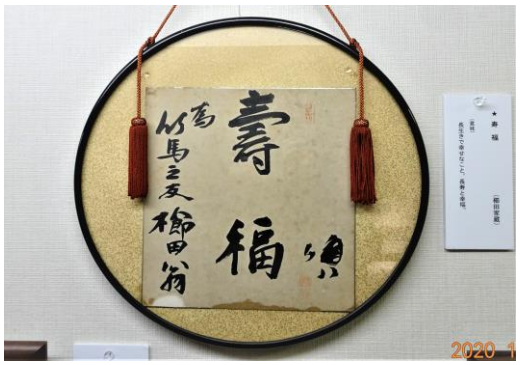
（中山峰夫氏　寄贈）

扁額　『勤倹譲』

「日常はよく働き、生活は質素にして慎ましく生き、余裕があれば人にほどこしを」の意
　大日本報徳社社長の河井弥八氏は、報徳思想の根源を揮毫して贈った。　贈られた金田利平氏は、市内の建設業「(株)金田組」の二代目経営者。

（金田実平氏　寄贈）

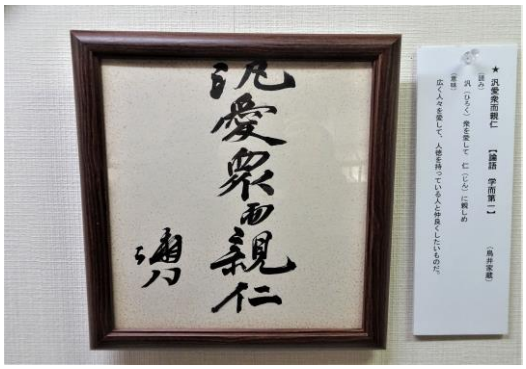
※令和3年（R3年1月～12月）



色紙　『寿　福』

（意味）長生きで幸せなこと。　長寿と幸福

（櫛田家蔵）

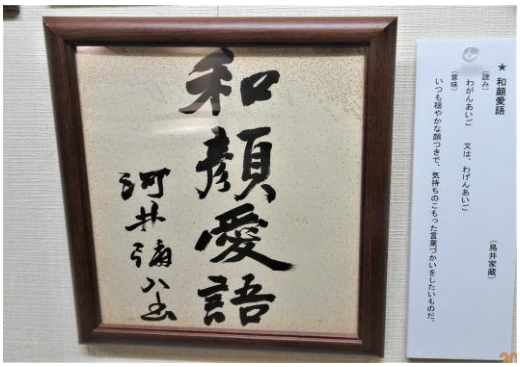


色紙　『汎愛衆而親仁』

（読み）汎（ひろく）衆を愛して仁（じん）に親しめ

（意味）広く人々を愛して、人徳を持っている人と仲良くしたいものだ。

（鳥井家蔵）



色紙　『和顔愛語』

（読み）わがんあいご　又は、わげんあいご

（意味）いつも穏やかな顔つきで、気持ちのこもった言葉づかいをしたいものだ。

（鳥井家蔵）

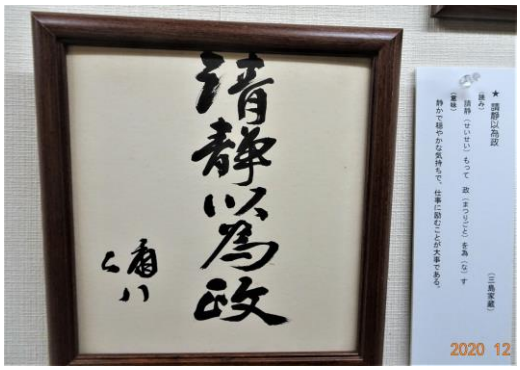
色紙　『天行健君子以自強不息』

『周易』

（読み）天行（てんこう）健（けん）なり　君子はもって自強（じきょう）して息（や）まず

（意味）天の運行が順序正しいように、自分を向上させるために、日々努力したいものだ。

（三島家蔵）



色紙　『請静以偽政』

（読み）請静（せいせい）もって　政（まつりごと）を為（な）す

（意味）静かで穏やかな気持ちで、仕事に励むことが大事である。

（三島家蔵）

※令和4年（R4年1月～12月）

扁額　『三省吾身』

「人の道を説く者は、人の模範となるために、絶えず自分を振り返り、律しなければならない。」の意

出典　論語　学而第一

佐藤先生は教育関係者で市の教育長もやられた方

（前嶋（旧姓佐藤）康枝氏寄贈）

※令和5年（R5年1月～12月）

扁額　『言忠信　行篤敬』

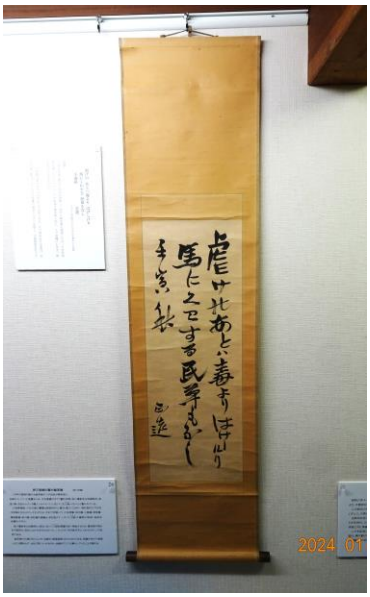
（読み）　げんちゅうしん　こうとくけい

（意味）　日頃の言葉に誠実さがあり、行いに真心があれば、人は信頼して敬うものです。

（出典）　論語　衛霊公15-6

（平野智久家　蔵）

※令和6年（R6年1月～12月）



田中正造の掛軸『虐げの　あとハ毒より
はげしけり　馬にくわする　民草もなし
壬寅秋　　正造』

（大意）足尾鉱毒で農民の生活は困窮し、政府に解決策を要望したが、十分な対策は講じられなかった。今や鉱毒で農産物も枯れ、人の食糧にも欠き、馬に食べべさせる草もない。

この書軸の書かれたのは明治三十五年である。その翌年田中正造は、公害問題で親交のあった河井重蔵の選挙のために来掛し、応援演説を行っている。

（河井家と親戚関係のある神谷知彌氏より寄贈）

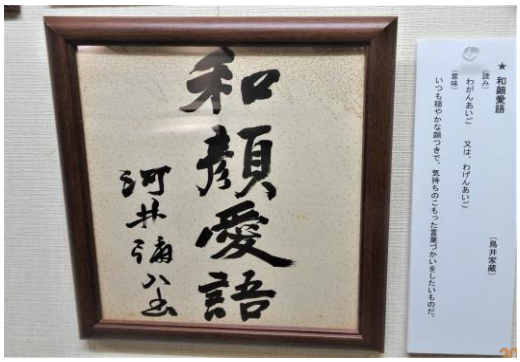
扁額　『言忠信　行篤敬』

（読み）　げんちゅうしん　こうとくけい

（意味）　日頃の言葉に誠実さがあり、行いに真心があれば、人は信頼して敬うものです。

（出典）　論語　衛霊公15-6

（平野智久家　蔵）

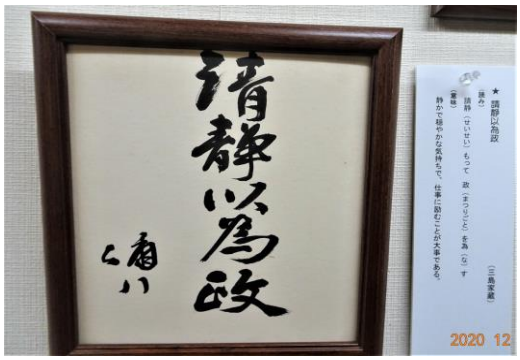


色紙　『和顔愛語』

（読み）わがんあいご　又は、わげんあいご

（意味）いつも穏やかな顔つきで、気持ちのこもった言葉づかいをしたいものだ。

（鳥井家蔵）



色紙　『請静以偽政』

（読み）請静（せいせい）もって　政（まつりごと）を為（な）す

（意味）静かで穏やかな気持ちで、仕事に励むことが大事である。

（三島家蔵）